

# 『旭川と東京をつなぐ 架け橋として』

Vol.37



＊【予告】本年度(平成29年)第41回の総会・懇親会は、10月28日(土)午後5時からの予定です。

## 第40回東京旭川会総会・懇親会のご報告

2016年10月29日(土)午後5時より、ハイアット・リージェンシー東京で開催されました。出席者は会員143名、来賓・協賛関係23名、合計166名でした。



第37号：平成29年(2017)3月29日発行  
 発行：東京旭川会 〒247-0035  
 神奈川県横浜市栄区桂台西  
 1丁目23-1(山崎正之)  
 TEL/FAX：045-891-3949  
 編集：東京旭川会広報チーム

### 新たなスタイル

第40回記念総会ということでも、昨年までの立食スタイルとイメージを変え、総会・懇親会は、大きな会場で、円テーブル着席方式という新たなスタイルで実施されました。パネルディスカッションも出席者全員の前で行われました。

また、創立40周年を記念し、「東京旭川会40年の歩み」の映像編・資料編が制作されました。総会直後に、約8分間の映像で東京旭川会の「歴史と今」を交付してお渡しした資料編と併せ見て

▲「万歳三唱」を終えた皆さんの声：「こんなすごい万歳三唱は初めて。感動した」「肩寄せあって東京旭川会がひとつにまとまった感じ」と大好評でした。



▲①ご来賓の入場とご紹介(懇親会にての写真) ②旭川市長・西川将人氏 ③旭川市議会副議長・小松あきら氏 ④高橋照美(前)会長 ⑤加藤桂子(新)会長 ⑥西谷内力世(前)事務局長

いたとき、終了後、会場全体から大きな拍手をいただきました。

【総会】午後5時、荒川繁副会長兼準備委員長の紹介で、高橋照美会長が議長となり、「平成27年度事業報告及び決算報告」「会計監査報告(第1号議案)」「平成28年度事業計画並びに予算案について(第2号議案)」「西谷内事務局長より詳しく説明されました。会計監査については、米陀監事から、詳細に監査をしたところ、適正に処理されている旨の報告があり、第1号・第2号議案とも大きな拍手をもって原案通り可決・承認されました。

(第3号議案)「会長・監事の選任について」。今年は会長・監事選考の時期に当たることから、高橋会長より今後についての説明をいただいた。(高橋会長)「私は2012年2月から原前会長のもとで会長代行を務め、10月に正式に会長に就任し、2期4年以上の長い間会長職を務めさ

せていただきました。2015年4月『北海道ふるさと会連合会』の会長職を合わせて務めることになり、東京旭川会会長の職務を十分に果たせない局面がありました。幹事や関係者の皆さんにバックアップしていただき、何とか会長職を全うすることができました。心より感謝申し上げます。今回の改選期にあたり、会長職を退任し、後任の方に託したいと思っております」と挨拶がありました。

### 初の女性会長の誕生

高橋議長より、第3号議案「会長・監事の選任について」の詳細な説明があった上で、幹事会で十分に検討した結果をもとにした加藤桂子副会長を会長に選任する案及び現監事の米陀氏と安井氏の再任案が提案され、会場全体の大きな拍手で承認されました。

(加藤新会長のお考えとご挨拶は、3ページ目で詳しく紹介いたします)

【懇親会】(詳細は2～3ページ目をご覧ください)

【パネルディスカッション】(詳細は4～5ページ目をご覧ください)

### 感動の万歳三唱

万歳三唱では、出席者全員が舞台直前まで前進。音頭を取った山下裕久旭川観光コンベンション協会会長は、「私は今まで何度も万歳三唱の音頭を取りましたが、今回のような皆さんの熱気が迫ってくるような会場での万歳三唱は初めてです。気合が入ります」と、全員で祝40周年の万歳三唱となりました。

# 第40回 懇親会

和やかに

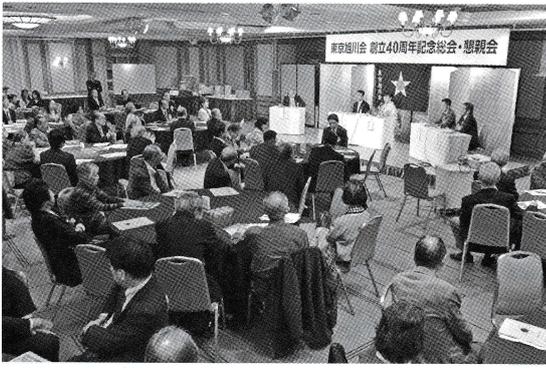
にぎやかに

## 旭川市から感謝状贈呈

郷土訪問の際に旭川市北彩都ガーデンで40周年を記念し記念植樹をしたことに対し、旭川市から東京旭川会の高橋照美前会長に対し感謝状が贈呈されました。



先ずは、加藤桂子新会長が「これからは女性の時代だとおぼだてられ会長になりましたが、ここにご参集の皆様と一緒に良い会にしたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いたします」と和やかなご挨拶。 (3ページに会長としての気持ちを記しました)。来賓ご紹介の後、来賓代表の西川市長から「この素晴らしい会でいろいろな元気をいただいで、地元に戻って頑張ります」とご挨拶をいただいた。



▶今回の会場はホテルの大会場に円テーブルを18台配置。完全着席方式になったのは40年の歴史で初めてです。



▲高橋前会長からは「大変光栄に存じます。これからも旭川市の応援団として頑張っていきたい」と返礼。



▲6月27日、北彩都ガーデンの一角に、郷土訪問の旅の参加者25名が東京旭川会40周年を記念してミズナラとシナノキの2本の木を植樹しました。雨合羽を着ての忘れられない思い出となりました。



▲ミズナラ ▲シナノキ

## 大抽選会



▲旭川市及び協賛各社からの「抽選会賞品」が勢ぞろい。合計38名の方に当たりました。ご提供商品のうち一部は「お土産」にもさせていただきます。ご協賛・ご協力いただきありがとうございました。



▲抽選会の司会三井尚美幹事から当選番号の発表があったのは、旭山動物園の発行年毎に違う動物のイラストの「パスポートコレクション」。



▲旭山動物園グッズやラーメン・旭川銘菓など旭川市から提供いただいた盛りだくさんのふるさとの品がいっぱい。



▲扇松園の女将・高橋仁美さんから、パネルディスカッションの会話の中で急ぎ決まった「泊宿泊券」がプレゼントされた。



▲ササキ工芸の木クラフトが当たった原名誉会長。「昔から好きな商品です。大事に使わせてもらいます」と喜びのコメント。



▲旭川観光大使で井上靖記念財団・専務理事の浦城いよさんより特別提供の著書「父 井上靖と私」が当たり大喜びの佐藤幹事。



▲あさひかわ農業協同組合の白鳥組合長より、旭川産と当麻町長様からの「ふるさと野菜セット」が当たり、「最高です」と大喜び。

## 名物壁新聞



▲第36回総会から登場した「壁新聞」は、今や東京旭川会には欠かせない存在となりつつある。東京旭川会の活動、旭川の近況、旭川出身者の活躍等。記事を話題に会話をしたり、記念写真を撮るのにもいいスペースです。



▲パネラーの一人として、ご自分の会社のことが紹介されている「壁新聞」を指さしご満悦の梅光軒の井上社長。

## ラーメンコーナーに行列



▲毎年恒例のラーメンコーナー。なつかしい味は並んでもでも食べたいものです。

アトラクション

旭川市出身の三好のぶちか氏による津軽三味線の演奏。「旭川工業高校出身です。北門中、近文小学校です」と挨拶すると「オー、先輩がいるぞー」と応答あり。「東京旭川会に来るのは初めてです。精いっぱい演奏します」とオリジナル曲「風」からザ・ベンツチャーズの「ダイヤモンドヘッド」、歌入りの「花笠音頭」、最後に「津軽じょんがら節」と15分間の熱い演奏に会場から大きな拍手が鳴った。



交流



▲スタルピン球場の「スタルピン選手誕生100年」の日本ハム戦で始球式をされたナターシャ・スタルピンさんととの記念撮影。



▲旭川市から駆けつけてくれたササキ工芸の佐々木ひとみさんと加藤桂子新会長が久しぶりのご対面。

初めての着席方式、年配者には菜であり食事もしやすい。反面、一旦座ってしまうと交歓、交流が少なくなり自由に動いて会話をする機会が持てなかったなどの声がありました。より良い総会・懇親会となるよう催物、進行などと合わせ工夫をしていきたいと思えます。

ご苦労さまでした



▲160人以上の参加者を受け付けるのはなかなか大変なことです。受付担当の皆さま、本当にご苦労さまでした。



▲総合司会の旭川観光大使のフリーアナウンサー・朝妻久美さん(右)と楠坂沙庸理さん(左)。

閉会挨拶



▲小松仁志副会長の閉会の辞:「皆様のご協力で記念すべき40回総会は無事に終わりました。来年もお会いしましょう。お元気で。」

40周年記念を飾った「東京旭川会40年の歩み」

加藤桂子会長からのメッセージ

40周年を記念して、幹事会の総意として、「40年の歩み」の資料編と映像編を作成しました。制作を担当した広報チームには、約半年間大変なご苦労をおかけしました。お蔭さまで、素晴らしいものができました。映像編は、総会の直後に放映しましたが、終了後には会場全体から大きな拍手をいただきました。約8分間の中に、東京旭川会の「歴史と今」が凝縮されています。今後は、できれば各高校の東京同窓会の際に、旭川出身の皆様にご覧いただき、東京旭川会に入ってきていただきたいと思っております。皆さまご協力をお願いいたします。

と宣言されています。何と高邁な精神に裏打ちされ言葉かと胸を打たれました。私を動かしているのは、このような気持ちからなのだと得心がきました。

そして、資料編の表紙の言葉「辛いなるかな、今もなお故郷を持つものは…」を最初に読んだ時、胸震える気持ちがあったのは私だけではなかったと存じます。「ななかまど」創刊号の巻頭に掲載された平岡敏男初代会長のご挨拶の中で取り上げられた哲人ニーチェの詩の一部だそうです。大先輩は素晴らしい言葉を私たちに教えてくれました。

「40年の歩み」の資料編の最後に記された言葉にご注目ください。会報「ななかまど」創刊号の編集責任者であった谷武雄副会長の言葉です。「(中略)会が発展するには、一にも二にも心だと思ふ。旭川出身者がこの会を通じて何を求めているのか、リーダー(幹事)は、どうすれば奉仕者(ボランティア)としての務めが全うできるのか。私も知恵を絞りながら設立当時の新しい心に立ち返ってご奉仕を続けたい」



また、2010年以降は、当時の原公朗会長がおっしゃった「わ」の精神は、現在の幹事会にも継続して取り入れております。そして40周年を機会に、これら諸先輩の精神と私たちの気持ちを、旭川出身あるいは旭川にゆかりのある若い人たちに伝えていきたいと考えたいと考えております。若い方々に東京旭川会に入りたいです。

ただきたいと思えます。今後はできるだけ若い方々のお力をお借りして、東京旭川会をもっともっといい会にしていくかが、私たち幹事に課せられた使命と存じます。

さて、私ごと、加藤桂子はこの40回記念総会にて会長に就任しました。簡単に自己紹介させていただきます。住んでいたのは、旭川市6条11丁目の旭川東高等学校の官舎です。中央小学校、明星中学校、東高等学校を卒業後、東京暮らしです。つまり、東京での生活がずっと長いのに、「私のふるさと旭川です」と堂々と胸を張って言える幸せを年経る毎にかみしめています。たぶん皆さんも同じ気持ちではなからうかと思えます。

東京旭川会には、発足以来参加して、発足10年の1987年(昭和62年)に八木祐四郎第二代会長からの誘いで、幹事となり30年を数えます。微力ではありますが、一生懸命に頑張りたいと思っております。どうぞよろしく、お願いいたします。





利。そんなところをPRして行きたい。荒川：こは旭川拙いぞというところをお願いします。

高橋：旭川市は今人口35万人ですが、都市は真ん中に力がないとダメです。中心に人が集まり、それがあふれて周りに波及して行く。しっかりした35万人の都市計画を持つ必要があります。

今、ウチの従業員も子供を産んで働けないんです。昔はお祖父ちゃん・お祖母ちゃんが見てくれていました。今60・70歳でまだ現役なので、子供を安心して預けられる所に力を注いでいかないと町はドンドン衰退していきます。旭川は子供を育てるのに有利だという町になって欲しい。

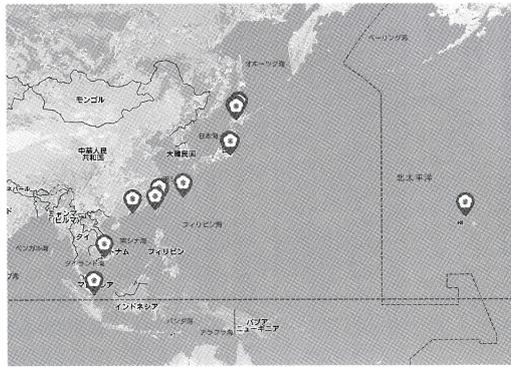
荒川：有難うございます。市長、今の点についてお願いします。

西川：子育て支援は、大変重要だと思います。一昔前は、専業主婦が7割今は働く女性が7割です。子供さんを預けないと子育てできません。保育園の整備は、これからもどんどん進めなくてはなりません。医療費の補助や学校の課題もシッカリやっていますかと思えます。

荒川：有難うございました。旭川から諸国を順次巡って行くという井上さんどうぞ。

井上：私の父は「昔、旭川はタクシーが全然埋まらなかった、人がたくさんいて三六街もすごかったんだ」とウソみたいな話をします。一方、アジアでは「アーこれは『LWAYS三丁目の夕日』だ」という景色が見られます。今、ASEANの中のV.I.P.といわれるベトナム・インドネシア・フィリピンは非常に熱い国です。その理由は人口の増加が著しいんです。人口が1億人いて、平均年齢が何と29歳。昭和20年代から40年代にかけての日本と同じように高速度で進化してゆく国を見るとやはり旭川も人口が欲しい、観光での流動人口を増やしたいと思えます。移住促進のよきなプログラムを「特区」を導入してでも「広く開国された街 旭川」を目指して頂きたい。

「井上君のところは、『グローバル企業』を目指して頑張っているんだね」とよく言われますが、僕はそんなつもりはありません。成長の「グロー」と地方の「ローカル」を合わせた「グローバル企業」と思っています。「地域がより強くなるために海外に行く。地域に還元できる何かを持ってくる。」という気概でやっています。



荒川：真柄さんお願いします。

真柄：今年は（私の会社から）31名が（旭川に）一週間行っています。その配分で法人税をなぜ旭川に収められないのだからかと思えます。旭川のインフラも使わせて頂いて、何もしていない東京にその税金を払うのはおかしいんじゃないか、税の面でもテレワークでお邪魔している以上は地域に貢献すべきと思えます。これだけテレワークを国が推進しているのですから、税はどうするかという話はきっちりした方がよいと思えます。

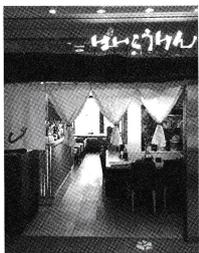
次は、よく我々のようなIT企業が地方からお声掛けがあってテレワークという話になり、大体その町の真ん中のIT完備のビルですと紹介されますが、我々そんなところには行きたくない。IT環境が整っていて且つ郊外で仕事ができる社員もより満足できると思えます。

荒川：有難うございます。西川市長、これに対してご意見をどうぞ。西川：税の配分についてそういうふうに仰って頂いたことは地方にとって非常に有難い話です。

皆さんに大変お世話になっているふるさと納税は、今年度から「ごとある」という会社に委託し仕組みをリニューアルしました。納税額も増えて、来年度も力を入れていきたいと思えます。ITは、一日も早く100%整備したいと思ひ、何か知恵を絞ってやっていかなければならないと思ひます。

荒川：有難うございます。そろそろ時間ですが、こは言うておきたいということ、井上さん、どうですか？

井上：ハイ。「番宣」です（笑）。実は東京にも店がございます。東京駅の横のKITTEビルに「はいこうけん東京」があります。私の名刺を持ってご来店いただくと「旭川人の称号と共にサービスを受けられる」ので、是非私の名刺を持ってご来店いただく様お願い致します。



はいこうけん東京

荒川：中々いいお話ですね。私もお願いしようと思っていました。女将、抽選会に出ますか？「泊タダ」とか出せますか？

高橋：？！...。じゃあ、そうしましよ（拍手）。

日本産の蕎麦の半分以上が上川、幌加内、江丹別産で、作付面積も日本一なのはご存知ですか？扇松園では毎日四〜五回、地場のそば粉で蕎麦を打っています。

家具も世界で五本の指に入ります。美味しいお酒もたくさんあります。地ビールもあります。

旭川には素晴らしい世界に誇れる文化とか環境があります。



最終的な我々の決定は、「誰にお金を使うか？」ということです。私は見栄を張っても旭川のものを使い続けお金を落とすように頑張っています。是非、お金を他の十分の二でも良いです。旭川に思いを馳せて頂きたいと思ひます。

荒川：有難うございました。それでは、あつという間に時間が過ぎました。これだけバリエーションに富んだ方を集めるのは、結構難しかったです。



進行 荒川繁副会長

です。「これで旭川の未来も...市長の未来も...」と思う次第です。皆さんのご協力、有難うございました。（拍手）

扇松園で日本将棋連盟 王位戦が行われました。



▲2016年8月9日、10日、扇松園で羽生善治王位に木村一基八段が挑戦する第57位王位戦七番勝負第3局が行われました。（後席左から2人が高橋女将。）

に展開している。現在、シンガポール、台湾、香港、ベトナムと日本を含め六か国20店以上出店している。近いうちにハワイオアフ島の出店も具体化するとのこと。

真柄泰利（まがら・やすとし）さん サイバートラスト（株）代表取締役社長

昭和33年東京生まれ、昭和57年ハワイ大学コンピューターサイエンス学科を卒業し、株式会社大沢商会に入り、その後、日本ソフトバンク（株）ジャストシステムを経て、平成5年マイクrosoft（株）に入社し、マーケティング部門に従事し平成13年取締役就任平成18年執行役員専務となる。平成20年富士株式会社創業、平成24年日本初の商用電子認証局であるサイバートラスト社長に就任。日本におけるソフトウェアビジネス黎明期から最前線で多くの経験・貴重な体験をお持ちのおひと。旭川市との関わりは、平成26年旭川医科大学住友和弘先生達と協力して、森林浴メンタルヘルスケアプログラムを自社従業員自らが実証実験し、森林浴によるストレス低減の客観的データを集め、社員のメンタルヘルスケアと予防を行う企業活動プログラムとして、他の企業にも普及可能なメンタルヘルスケアプログラムの開発と、旭川の自然が他の地域より効果の高い森林浴（エゾ松の効果）であるとのアピールも併せて行っている。

【お願い】 実際の皆様のご発言は、ウィットに富んだ楽しいモノでしたが、紙面の都合で大幅に省略させて頂いたことをご了承下さい。

# 東京から応援しよう、旭川からの若い力・文化・未来！

## 旭川永嶺高校吹奏楽部の初の道外ライブを応援に



▲2月17日相模女子大グリーンホールで来場510人を前に開催。部員56名に加え、プロミュージシャン、地元の府中3中吹奏楽部も加わり、1時間40分のにぎやかなステージに大満足。

「1100席のうちまた60席しか売っていない、東京の旭川出身者にも応援してほしい」という悲鳴のような情報があちこちから入り、手作り応援ボードをもって東京旭川会として応援に行ってきました。席は半分以上埋まった感じで、ほっとして高校生のメタルダンプレ（ダンス&プ



▲「永嶺高校ガンバレ!」「東京旭川会」の手作り応援ボードでの応援に、「生徒たちも力づけられたと思います」と吉川先生から舞台上でお礼のコメント。生徒と記念撮影。

レ)の躍動感あふれる舞台を楽しんできました。  
翌日、神奈川県民ホールで開かれた本番の「第16回マーチングステージ全国大会」で「優秀賞」と「講評者特別賞」を受賞したとのこと。先生、生徒の皆さん、よく頑張りました。おめでとうございます。

## 北海道旭川地域企業立地セミナーin東京開催!



▲セミナーの募集人数は50人。しかし、応募人数が多く、60名に増やして開かれました。西川旭川市長の挨拶後、岩田公雄氏のゲスト講演が始まり、元特派員ならではの視点で旭川のこれからの可能性を語りました。

2月9日に千代田区平河町の都市センターホテルで、首都圏企業向けの「北海道旭川地域企業立地セミナーIN東京」が開かれました。ジャーナリスト・学習院特別客員教授で、旭川市の観光大使でもある岩



▲セミナーの第二部は会場を移して特別交流会。岩田氏を真ん中に、左から谷寿男鷹栖町長、山本進東神楽町長、西川将人旭川市長、松岡市郎東川町長の各登壇者。皆さん、大変お疲れ様でした。

田公雄さんの講演の後に、西川旭川市長、谷鷹栖町長、山本東神楽町長、松岡東川町長による地域プレゼンテーションが行われ、自然環境豊かで災害の少なく、東京からアクセスの良い各市町の立地条件を参加者も再認識。第二部の特別交流会と併せて盛りなセミナーとなりました。

## 旭川から期待の若手二人

### 旭川藤枝出身 潤花デビュー!



▲入学した時の倍率は26倍。北海道からの合格がただ一人でした。皆さん、応援を是非宜しくお願いします!

旭川藤枝女子高(1年終了)出身の娘役タカラジェンヌ、潤花(じゅんはな)本名/今宮花乃さんが宝塚歌劇団102期生として昨年の星組公演「こもり」、「THE ENTERTAINER!」でデビューしました。家族一緒に考えた芸名でこれから夢と元気を与えてくれることでしょう。

## 六月公開!映画「花戦さ」プロデューサー 小滝祥平さん



(旭川東高25期)

『平成元年に小さな会社を興して28年、現在で39年目となります。小さな命たちが将来幸せに暮らせることを願いながら「ホワイトアウト」(「国のイジス」、そして「山本五十六」とプロデュースをしてきました。「花戦さ」では時代劇という空間を借りて非力ながら日本人の矜持を描くことにトライしています。』

ポニーキャニオン在職中に手がけた「光GENJI」の映画で面白さを知り退職。今まで多くのアカデミー賞を受賞。映画は興行であり、

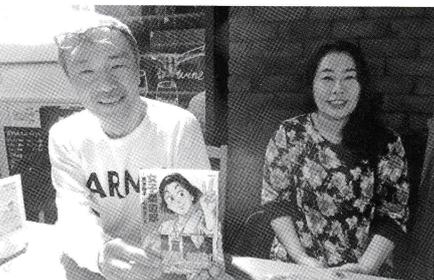


▲6月3日より上映予定の痛快時代劇「花戦さ」。秀吉もびっくりの池坊専好(野村萬斎)の奇想天外な戦法をご覧ください。



▲生まれは富良野市。高校へは富良野から往復約4時間かけて通学のガンバリ屋さん。昨年は50本を超える数のライブをこなし、看護師としても東京都内の病院に週3回勤務している。

富良野出身、異色の歌手兼看護師 旭川西高61期 瀬川あやかさん  
看護師を目指すために進学した大学で、周囲の勧めで出た大学のミスキャンパスコンテストで準グランプリに選ばれ、芸能界入りのキッカケから、看護師になることを難しさから、看護師になることを優先してたが、認知症の患者が歌で元気になるのを目にして音楽の力を再認識。以後、歌手の活動を再開。看護師の道と両立させた活動をしています。



▲イブニング誌連載のコミック「JJM女子柔道部物語」を手にする漫画家・小林まこと先生(左)と恵本裕子さん(右・三井住友海上 女子柔道部 特別コーチ)。

旭川市出身で、1996年のアトラントオリンピック女子柔道61kg級で、日本女子柔道界に初めてメダルをもたらした恵本裕子さんが原作の漫画「JJM女子柔道部物語」がヒットし、話題になっている。冬の旭川を舞台に白帯の女子高校生が世界の頂点を目指す物語だ。昨年8月連載開始、これからはますます面白くなる。乞う期待!  
旭橋や出身高の旭川南高や旭川市のあちこちが漫画に出てくるのもうれしい。途中から同席された漫画家の小林まこと先生によると、昨年の冬と夏に恵本さんに高校時代の足跡を案内してもらって、たくさん写真に収めてきたとのこと。漫画の中には、「なしたのさー」○○だべさ」など北海道弁が出てきて「大した懐かしいっしょ」という感じ。恵本さんからは「旭川市にお住まいの方にも旭川出身者の方にもぜひ読んでいただきたい」とのことです。旭川人必読!の漫画かもしれません。

## 旭川発の「女子柔道部物語」

## 旭川からの話題！

### 旭山動物園が「地方創生大臣賞」！

産学官でつくる「サービス産業生産性協議会」が「日本サービスマス大賞」を創設し、第1回目の受賞者として道内から唯一、旭川市旭山動物園が最高賞に次ぐ「地方創生大臣賞」に選ばれました。動物本来の能力を見てもらう「行動展示」が評価され、毎年百数十万人に上る来園者の地域経済貢献も受賞の後押しに。



▲「行動展示」のバイオニアとしてこの分野の市場を形成し、全国の動物園に大きな影響を与えました。

### 米どころ、酒どころ旭川！

農協の6次産業化商品の名品を発掘する「第3回JAグループ6次産業化商品コンテスト」で、あさひかわ農協の「ゆめびりか甘酒」が大賞を受賞しました。道内からの受賞は初。また、モンドセレクション世界酒類コンクールで旭川市内の酒造会社「男山」の看板商品「純米大吟醸男山」も、40年連続金賞以上受賞を遂げました。最高金賞も9年連続に。



▲あさひかわ農協のゆめびりかと米こうじを使用し、砂糖を使わないさっぱりした甘さが特長。

### 永山中学校生徒に総理大臣賞！

第36回全国中学生人権作文コンテスト中央大会で、最優秀の内閣総理大臣賞に、旭川市立永山中学校2年の神谷桃歌さんの「日本のいじめ対策は間違っている」が選ばれた。全国7338校から97万2553人が応募の中で素晴らしい栄冠です。



▲平成29年1月6日(金)法務省での表彰式。紙谷桃歌さんは右から2人目。作文は法務省のHPで見られます。

### 3校統合の中央中学校が昨年開設

市内中心部で学区が隣接する常盤中学校、聖園中学校、北都中学校の3校の統合が、平成28年4月に実施され、中央中学校として新設されました。場所は旧常盤中学校跡に立派な新設校舎が完成。現在は、生徒数370名前後で、校訓を「人として」、教育目標を「次代を担う旭川人の育成」として2年目を迎える。



▲中央中学校。統合された3校は、昭和22(1947)年に常盤中は第5中、聖園中は第6中、北都中は第7中学校として開校し、68年の歴史に幕を閉じた。

## 東京旭川会の活動を報告します

東京旭川会では会員相互の懇親を深めることを目的に様々な活動を行っています。昨年は東京旭川会創立40周年記念行事の一つとして「郷土訪問の旅」を実施しました。また旭川出身力士の応援や新宿にある旭川市のアンテナショップの応援などを行ってきました。この他にも加入している北海道ふるさと会連合会主催の親睦旅行会や日本ハムを応援する会などにも参加しました。

今年も様々な活動を予定しています。皆様の参加大歓迎ですのでお気軽にご参加ください。お問い合わせは事務局まで。

### 「郷土訪問の旅」を実施

第28回「郷土訪問の旅」を昨年6月17日(金)～19日(日)の日程にて実施しました。

今回のテーマは「記念植樹祭を実施、自然の景観を堪能、温泉で疲れを癒し、ゴルフ交歓会などを通じて旭川市との親睦を深めて、郷土に感謝し、応援する」としました。

高橋会長を団長とする総勢25名の皆様に参加され、残念ながら天候には恵まれませんでしたが多くの思い



▲あさひかわ北彩都ガーデンでの40周年記念植樹はあいにくの雨の中、雨合羽を着ての作業となりました。ミスナラとシナノキを旭川駅南側大池プロムナード入り口付近に植樹しました。

出作りができました。旭川観光コンベンション協会、旭川振興公社のお土産手配をはじめ旭川関係者の皆様のおもてなしに感謝致します。



▲植樹の翌日は天候もやや回復し、ゴルフ組と観光組に分かれてホテルを出発。第7回懇親ゴルフ会は旭川関係者との交歓ゴルフコンペとして大雪山カントリークラブで実施。総勢20名参加の下、雄大なコースで大いに親交を深めました。



▲観光組はロープウェイで黒岳7合目へ。下山後当麻へ移動しレストランで昼食。その後、当麻鍾乳洞、上野ファームを見学しました。

### 旭川アンテナショップに協力・参加

今年1月28日に行われたイベントに参加しました。



▲今回は過去最低気温-41℃を記録した日本一さむいまち旭川市と過去最高気温+41℃を記録した日本一あついまち四万十市との±41℃コラボイベントでした。特設コーナーには両市の物産が数多く並んでいました。

## 東京旭川会のホームページをご覧ください

東京旭川会では、インターネットのホームページ(HP)を開設しています。HPは、パソコン以外に携帯電話やスマホでも閲覧することができます。「東京旭川会」と検索して、東京旭川会—県民.com を選ぶと見られます。また、右のQRコードを活用すると、より簡単にアクセスできます。会報『ななかまど』とは別に、HPでは、会の案内やお知らせ、活動報告、写真、トピックス、皆様の投稿等をタイムリーに載せています。HPを通じて広く情報発信しています。



▲「40年の歩み」の映像編取材を兼ね、昨年9月場所前に友綱部屋の朝稽古で旭大星を激励した。以降、8勝、10勝、8勝と3場所連続勝ち越し。春場所は十両西6枚目と上位で迎える。頑張ろう！

### 「旭大星」を応援しましょう！

旭川市出身の旭大星が2月5日の「大相撲トーナメント」で初の十両優勝。地方がついて「入幕」が狙える十両上位に昇進。みんな応援しましょう。

